

待ちに待った県道岩城弓削線『生名橋』開通！

2月6日(日)、町民の永年の悲願である県道岩城弓削線の2つ目の橋『生名橋(いきなはし)』(515m)が開通し、開通式典や渡り初めなどの開通セレモニーが行われ、約20000人が開通を祝いました。

この生名橋と佐島を結ぶ生名橋は、愛媛県が進める上島架橋整備事業の一環で、平成19年7月に着工し、約77億円の総事業費で橋長515m、中央支間315mの3径間連続鋼・コンクリート混合斜張橋が完成したものです。

せとうち交流館で行われた開通式典では、中村知事が「上島町民の永年の悲願が実現し、喜びはひとしおのものがあると思います。これから岩城との架け橋の実現に向けて前県政を受け継いでしっかりと歩んでゆきたいと思います。」と挨拶を

し、弓削中学校の松本萌さんと村上侑也さんが生名橋の完成を祝う作文を朗読しました。その後、上村町長が、「本日は、上島町民にとりましてこの上ない喜びでありまして、上島町の新たな歴史を飾る日となりました。先人や諸先輩の皆様が汗を流し、花を咲かせ、実りとな

った結果であり、これからも感謝の気持ちを持ち続けなければならないと思います。」と挨拶をしました。

生名橋の佐島側で行われた開通セレモニーでは、テープカット・くす玉開披が行われた後、佐島側は弓削小学校金管バンド、生名側は上島町名誉町民の村上幸史さんと生名小学校トランペット鼓隊を先頭に関係者や各地区だんじり、町民等が、橋の両側から渡り初めをしました。また、橋の中央では、上島町民の感謝の気持ちを込めて村上幸史さんから中村知事に花束が贈呈されました。

生名橋記念公園に到着すると、生名地区と佐島地区の勇壮なだんじりのかき比べが披露され、威勢のいい太鼓と掛け声で生名橋開通に華を添え、フィナーレに中村知事や上村町長等により餅まきが行われ、会場は大変賑わっていました。

セレモニー終了後は、生名地域交流センターにおいて祝賀会が行われ、生名橋の開通に町中が沸いた一日となりました。また、今後は岩城島と生名島を結ぶ3つ目の橋『岩城橋』を早期に実現できると期待したいと思えます。



▲加戸前知事・中村知事・上村町長



▲村上幸史さんから中村知事へ花束贈呈



▲テープカット・くす玉開披



▲生名地区と佐島地区の勇壮なだんじりのかき比べ



▲弓削小学校金管バンドを先頭に渡り初め

生名橋 開通記念作文

私達の大切な架け橋 弓削中学校 二年 松本 萌

今日、この日をもって、上島町の島と島とを結ぶ二番目の橋が開通します。一番目の弓削大橋は、一九九六年、平成八年三月に開通しました。私は、上島町の弓削島に住んでいます。今十四歳の私は、弓削島と佐島を結ぶ弓削大橋が開通した後に生まれました。そのため、物心がついた頃には、弓削島から佐島に車で行き来することが当たり前で、橋がどのようにならぬ、どのくらいの期間で造られていったのか、考えたり興味をもったりしたことはありませんでした。しかし、今日新たに開通する、佐島と生名島を結ぶ生名橋が、建設当初から今日まで、毎日形を変えて行くのを、通学路から見続けることができました。



ある時は、海に大きなコンクリートの基礎ができていたり、またある時は、橋の上にクレーンが設置されていたりと、日に日に完成に近づいて行くのを見るのが楽しみでした。昨年九月一日、橋桁がつながった日には、クラスの友達と、学校の二階のテラスに出て、みんなで一緒に感動したことを、今でもはっきり覚えています。そんな楽しみや感動は、橋の工事現場で働く方々が与えてくださいました。夏の暑い日も、冬の寒い日も、また風や雨が強く吹いたり降ったりしている日も、一生懸命、生名橋の完成に向けて、働いておられました。その他、事前の調査をしていただいた方々、橋の設計をしてくださった方々、資材を運搬して来てくださった方々など、たくさんの方々の皆様のおかげで生名橋は完成しました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。私は、この上島町に生まれ、住んでいることを幸せに思っています。美しい自然やあたたかい心をもった人たちに囲まれて生活しているからです。しかし、問題がないわけではありません。離島のために不自由なこともたくさんあります。私の友達は生名島にもたくさんいます。遊びに行こうとしても、船便や時間的なことを考えたりすると、なかなか行くことができません。私の母も同じです。母の仕事は、ヘルパーです。生名島での仕事もたくさんあります。多い日には、一日に船で二往復もしなければならぬこともあります。そのため、橋が開通すれば、どんなに便利になるか、家族で話し合ったことも何回もあります。今後、生名橋の開通によって、弓削島、佐島、生名島の人々との交流の機会が増え、新たな町づくりの期待がもてます。上島町のキャッチフレーズは、「海と緑と太陽と・笑顔でつながる上島町」ですが、島と島だけでなく、人と人を笑顔で結ぶ大切な架け橋となることを願っています。

僕たちの夢「生名橋」 弓削中学校 二年 村上侑也

僕は生名橋が開通するのを、心待ちにしていました。なぜなら、生名橋の開通は、僕たちの夢だったからです。僕の住んでいる生名島から、佐島や弓削島に行くには、船しか交通手段はありません。それが、生名橋の開通によって、自由に行き来することができるようになります。僕たちが通っている弓削中学校は、平成二十年四月に、生名中学校と統合しました。しかし、橋がなくなっていたために、霧で船が欠航した場合は、学校に通うことができませんでした。そういうことが、一年に何回かありました。これからは、生名橋が開通し陸続きになったことで、本島の統合の始まりだと思っています。通学はスクールバスではなく、今まで通り船通学ですが、霧で船が欠航になった場合は、臨時バスが迎えに来てくれ、いつでも学校に通うことができます。また、土曜日や日曜日、長期休業中の部活動への参加は、自転車に乗って行けるようになりました。僕は、野球部に入っています。天気の良い日は、体力づくりも兼ねて、自転車に乗って、部活動に参加しようと思っています。気持ちのいい風を受け、美しい島々の景色を見ながら、二つの橋を渡って学校まで行きます。きっと楽しいだろうと思います。父や母も、便利になると喜んでいて、参観日やPTA活動への参加についても、これからは、時間を気にすることなくゆとりをもって参加できるからです。運動会や伝統行事である「槽ごぎ大会」などにも、生名島から、たくさんの方が参加でき、すごく盛り上がるのではないかと思います。二期には、もうすぐ生名橋が開通し、橋への興味関心が高くなるとうことで、弓削商船高等専門学校による「出前授業」を受けました。食べるパスタで橋を組み立てていくのです。どのように補強すれば丈夫な橋ができるのか、みんなで考えながら作りました。丈夫にできたかどうかの実験も行いました。とても楽しい授業でした。同時に、世界のいろいろな橋の写真を使って、橋の名前や橋の種類も学習しました。生名橋は、斜張橋です。僕たちの学校から、この美しい斜張橋「生名橋」は、はつきり大きく見ることが出来ます。これからは、この生名橋を多くの人や物が行き交う中で、更に町が活性化していくことだと思います。生名橋の開通は、僕たちの夢でしたが、本当の意味での夢の達成はこれからです。この生名橋を活用して、今まで以上に、上島町のみならず、笑顔で、幸せに、明るく、元気に生活できるように町づくりの方向性を願っています。新しい町づくりに向けて、中学生の自分にとって何が出来るかを考え、小さいことから少しずつ実践していきたいと思っています。



生名橋開通記念

第1号通行車両

認定

また、上島町から生名橋開通に合わせ、生名・佐島の両側では第1号通行車両の方に認定書と記念品を贈呈しました。

【生名側】

木村 繁さん

(今治市大三島町)

【佐島側】

長谷川 武さん

(香川県高松市)



【生名側】木村 繁さん



【佐島側】長谷川 武さん